

BCAO関西支部 令和4年4月度(第167回)地域勉強会 議事録

日 時 2022年4月20日(水) 18:55~20:30

場 所 Zoom

司会者 田中 書記:寅屋敷

出席者 (関西支部)飯田、梅田、野原、徳山、別役、大館、田中、萩原、中島、大下、上辻、湯地、高杉、西條、中村、寺岡、三橋、山口、寅屋敷(記)(計19名)
(まいにち株)岩佐、久保、勘米良(計3名)

テーマ:「災害時のトイレ対策、トイレ処理セットについて」

講 師:まいにち株式会社 営業部 岩佐博文氏、久保信広氏

※司会田中:資料は終了前にチャットで送付(→送付できなかったので、後日メールで送付に変更)

概 要:

(1)災害時のトイレ 久保信広氏

*会社の沿革について

- ・災害時のトイレ製品を作るきっかけは1995年阪神淡路大震災
- ・初代はテント式の仮設トイレから始まり、その後、便器に重ねる袋と凝固剤のタイプの「マイレット」が登場。

*災害用トイレの市場

- ・阪神淡路大震災以降トイレが困ると認知され、ニーズが増えていった。
- ・企業における災害用トイレ備蓄は、東日本以降増えていった。
- ・平成25年の東京都帰宅困難者条例で、従業員3日分備蓄が推奨されたことが大きい。

*災害現場のニーズ

- ・水洗トイレは断水だけでなく停電でも使えなくなる。例:タワーマンション
- ・地震の場合、上の階の下水配管が破損している場合があるので、安全確認できるまで使用を控える

*マイレットの特徴

- ・既存のトイレを仮設トイレとして運用できる
- ・抗菌性凝固剤で汚物を固め、可燃ごみとして処理できる(自治体のルールを確認)

*選ばれる理由

- ・コンパクトで置き場所に困らない、10年間の長期保存可能
- ・抗菌性・消臭性能もあり長期間回収が無くとも衛生状態保てる

*企業以外のトイレ備蓄

- ・自治体、自治会、マンション管理組合、避難所、学校など
- ・既存のトイレが使えない場合はテントと仮設トイレでも使えるようになる

* 携帯トイレの活用

- ・啓発、販促、備蓄、帰宅困難者への配布用などに使える
- ・オリジナルデザインで、外国語にも対応
- ・オリジナルデザインは、自治体や社会福祉協議会で活用実績あり
- ・携帯トイレは配布しやすい特徴があるので、様々な場面で使える(企業のCSRで寄付など)

* まとめ

- ・抗菌、消臭、可燃ごみ、コンパクト、凝固持続、簡単、10年保存、納入実績、ラインナップ

(2)マイレット商品について 岩佐博文氏

* 近年の災害:2018年~22年

- ・北海道胆振東部の前、道北部は意識なかったが、停電になったら災害時のトイレの意識変わった

* マイレットミニ 10 (10回セット)

- ・内閣府の資料で1人1日平均5回トイレに行く
- ・1人2日分(2人1日分)の商品

* マイレット S-100 (100回セット)

- ・自治体・企業用(家族4人でも5日分)
- ・取説付(外国語対応・わかりやすい)

* マイレット P-300

- ・配布できる小分けタイプ(帰宅困難者用)
- ・5回セットが60パック=計300回分

* レスキューテント X

- ・トイレがない場合はテントが必要。
- ・夜でも使えるようにランタンフックがある
- ・匂いがこもらないように上部に換気口
- ・アウトドアでもインドアでも使える

* プラダントイレ

- ・プラスチック段ボール製の簡易トイレ
- ・簡易トイレ3種類あるが、一番人気
- ・組み立て式

- ・収納時備蓄に最適
- ・600kgの圧縮試験済み 重さは大丈夫

* マイレットWR-100(水害対策)

- ・100 セット 内容物はS-100と同じ
- ・ケースが超耐水性、1週間水没しても大丈夫
- ・凝固剤等もアルミフィルムで真空パック
- ・使用方法ポスターも耐水紙

* マイロール 255(長尺トイレトーパー)

- ・トイレトーパーをアルミフィルムで真空パック
- ・ケース箱が超耐水性
- ・1 ロールの長さ 255mが 30 ロール、通常の4~5倍の長さ(備蓄スペースが収まる)
- ・開けた時はいつでもぱりぱり

* アートワレAVT-5、10、50

- ・#映える防災
- ・5回セットは壁に掛けられる
- ・アートなデザイン(防災と普段使い)で、リビングにおいても違和感がない
- ・去年春に発売スタート
- ・NHKで2回取り上げられた。北海道の民放も
- ・ホームセンターで買えるようになった
- ・差別化して一般消費者向け

(3)質疑応答

- ・簡易トイレは備蓄しているか？(参加者に向けて)
 - 家庭:半分ぐらい、勤務先:半分ぐらい、少ない？
- ・簡易トイレを実際に使ったことが有る方？(参加者に向けて)
 - 数人
- ・初動対応訓練の時に簡易トイレを実際に職員に使ってもらおうと考えているが、良いやり方はあるか？
 - よく実施するのは、袋と凝固剤を使ってデモンストレーションをやる。ペットボトルの水をいれてやってみる。実際には袋をかける動作も重要なので、そこから説明するのが多い。実際テントの訓練をした時、説明書渡してもまともに使える人は3割ぐらいしかいないので、実際にやってみるのが必要。
- ・デモでやる時用に、段ボールとかの簡易便座はあるのか？
 - プラダントイレがあるが、デモ用のものではない。バケツとかでも代用できる。

- ・凝固持続期間について教えてください。災害時のごみの回収サイクルとの関係で説明していただけると有難いです。
 - 凝固持続期間、以前は1ヶ月だった。ある入札で、仕様書が3か月持続しなさいとあったので、その際は入札できなかった。その後、実験し、排便袋の中に生理食塩水いれて、凝固剤で固めたその状態で何カ月続くか。半年間固まった状態続いた。抗菌性能・消臭性能も維持できている。
- ・1日5回トイレに行くのが平均ですが、それらを合わせた1日の排泄量(携帯トイレ・凝固剤含む)をご提示いただければ幸いです。
 - 排尿1回平均で200~300cc、大便の量、商品の重さの合計で検討ください(4回小、1回大の想定)
- ・企業や避難所で携帯トイレを使う時の準備やごみの回収までの使用方法の説明ポスターのようなものは提供されていますか？
 - ポスターは、使用説明しか書いてないので、処分等までのストーリーは今後の課題です。保管方法とか自治体のルールの確認など、使う側の立場に立った説明を今後検討したい。
- ・トレットペーパーの長さが4~5倍という事は、紙厚が薄いという事ですか？
 - 紙厚は実際使うと強度はちゃんとある。品質は問題ない。巻き方が違う(レシートみたいにかっちり巻いている)ので、4倍5倍巻いてある。
- ・凝固剤の使用期限ですが10年たっても性能はあまり劣らないデータがありましたが、実際はどの位使用できるのでしょうか？
 - 凝固剤自体の期限はもっと長いですが、袋が劣化しやすいので10年としている。
- ・凝固剤7gでどのくらいの尿量を凝固させることができますか。
 - 7gは大人の1回分強350ccまでが固めて匂いを押さえられる。子どもの量が少ない分は2回使ってもいい。
- ・介護職なので、1日分をポータブルトイレにためている尿を処理するのを想定している。量に応じて、何袋かをいっぺんに使う形になるか？
 - それで対応いただければと思います。
- ・可燃ごみ扱いということですが、避難所のゴミ回収が滞った場合、衛生維持と天秤にかけて、最悪は避難所である小中学校の焼却炉で処分できる可能性があるということでしょうか。
 - 水分を大量に吸っているのでも、焼却場の高温でないと燃えない。焚火程度ではだめ。
- ・動画の手順だときれいに使えそうだと印象があるが、実際には衛生的にトイレを保つのが難しいのではないかと。災害時にできるだけ衛生的に保つための注意点があれば教えてほしい。
 - いろんな人がいて、きちんとした使い方をしない人が出てくる。そのために、日頃の訓練などで、使い方の周知が一番大事。汚さないという意識を持たせる。

・停電時に使う場合、トイレには照明は必須でしょうね。優先的に電気回した方がいいか？

→ 暗闇だとできないので、懐中電灯でもランタンでもあった方がいいと思います。

コメント:

・大型の避難所ではランタンを盗られてしまう可能性があります。だから照明やペーパーを貸出式にします。

・使い方の適切な指導の仕方

→ デモンストレーションでもやるが、小便だけの場合は先に凝固剤いれてもいい。大便等固形物は後からじゃないと固まらない。そこを周知していく。

・アートワレは、最近流行りのフェーズフリーの概念に適合した商品だと思うが、売り出してからの実際の評判はいかがでしたでしょうか？

→ NHK で 2 回取り上げられて 1 回目の波が押し寄せた。カタログ通販生活に取り上げられて 2 回目の波がきた。3 回目は東急ハンズ、カインズのようなホームセンターで販売できた。安定した形で売り出せている。

→ アートワレは、フェーズフリーの代表的な商品で広告をしようとしている。プレスリリースでは 6000 個販売を目指すとした。プレスリリースの目標は、達成できないくらいの目標を打ち出すことが多いが、予想外に売れた。1 年間に 8000 回。フェーズフリーで認知度が上がるといい。

・災害時のトイレでマンホールを利用したものがあると思いますが、有効な活用事例・方法等をご存じでしたら教えてください。

→ マンホールトイレは凝固剤と違って、20 数年前から出回っている。下水が流れてたら使えるタイプ。上水道が止まると下水が流れないので、巨大ぽっこん便所になる。つまり、ある程度溜まると積みあがってしまう。行政によっては専用のマンホールトイレは、下が大きな空間になっているので、そういうところだとある程度の量が貯められる。マンホールトイレは水没するエリアでは全く使えないというリスクもある。

→ マンホールトイレにテントをした場合、風がきたら飛んでしまうこともある。テントでは風対策も必要。

以上